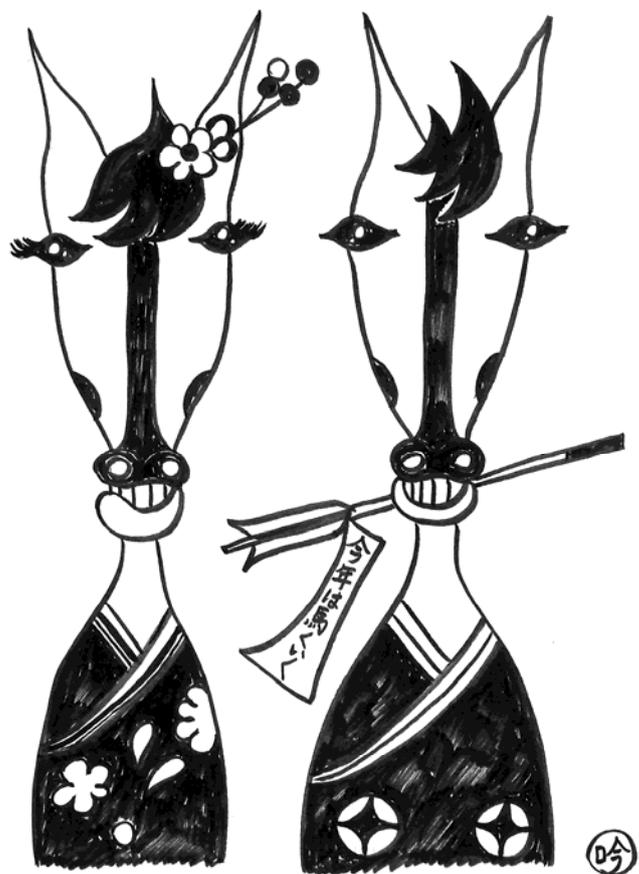


SSKO

社会福祉法人 はらからの家福祉会

われら同胞

NO.39



☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 2 p 巻頭言
- 3 p 実習生リレー
- 4 p プラッツ旅行
- 5 p グループホーム日帰りバスツアー
- 6 p 賛助会コーナー

新たな一歩に

はらからの家福祉会 理事長 須長 靖夫

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は皆様方に大変お世話になりました。誠に有り難うございます。

このようにご挨拶をしても、今年はまだにない困難と共に明けた新年という感じを非常に強く持っております。

3・11福島復興と原発事故への対応は依然として混沌としております。また、昨年末の超大型台風や大雨による被害は、大島を始め日本各地のみならずフィリピンなど広域に及び、筆舌に尽くしがたい被害をもたらしました。こうした過酷な状況下で、障害のある方々の生活をしっかりと支えて行くべき私たちの役割は、かつて無いほど求められ

ており、緊張感を持っております。

一方、国分寺市では地域福祉計画策定委員会(高齢者、障害者、子ども、健康の4部会で構成)が昨年10月から開催されています。新たな障害者計画策定に向け障害者部会で審議していますが、災害への対応も含め後退した内容にならないようしっかりと取り組んでほしいと願っています。私も委員として参加している国分寺市自立支援協議会での協議と呼応した形で、広く障害保健福祉に寄与した内容にして行くために協働していきたくところでございます。

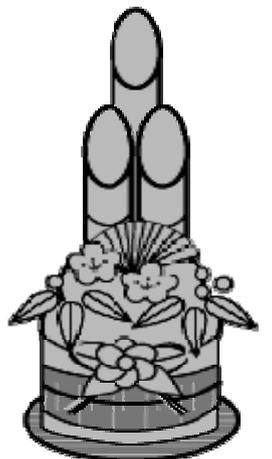
ここ数年、日本では障害者権利条約の批准に向け、障害者基本法の改正、障害者差別解消法の成立など国内法の整備がされ

てきています。後は具体的な批准に向けて国会へ承認案提出を受け、承認されれば我が国も批准することになります。

さて、私たちは国分寺市を中心に「障害の有無を超えた共生社会の実現」を軸に、精神に特化した形で活動して参りました。そんな私たちも気がついてみると、1981年(昭和56年)任意団体として「福祉的共同ホーム」を始めてから33年、1998年(平成10年)に法人が認可されてから16年が経過しております。ここで少し立ち止まって、これまで辿ってきた歴史を振り返り、今自分たちの置かれている状況、活動現場の狭隘問題や利用者の方を中心に成すべき必要なことなどを再確認しつつ、新たに歴史を刻む大切な区切りとして、記念の式典を

開催することに致しました。開催時期は平成26年6月28日(土)、場所は国際文化理美容美容専門学校国分寺校を予定しています。こういう厳しい状況下での開催こそ、自らを見つめ、次の新たな局面、新たな歴史に向けての「動力」「活力」にしなければと思っております。

今年の午年は、当法人に取りまして非常に大切な年になります。実りある年にしていくために、職員並びに関係者一同、気持ちを引き締めて取り組む所存でございますので、ご理解を賜ると共に、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



実習生感想リレー



私は、水戸黄門の水戸市から通いました。田舎から出て来ると、国分寺市が都会的な住宅地なので、住みやすいところだなと感じました。プラツツ・メビウス・さつき・第二さつきなど、街の中の生活感溢れる立地条件で、親近感を持ち羨ましく思いました。

そのような環境の中で、多くのメンバーさんが生き生きと活動されておられ感激でした。国分寺まつりにも参加させていただき、雨模様にもかかわらず多くの来場者があり、楽しい時間を過ごすことができました。両隣のテナントが深く関係しているとはつゆ知らず、和気藹々とき

れていることも驚きでした。人は皆繋がっている。それぞれが支え合っている。ということを感じさせていただいた実習でした。水戸にもプラツツさんのような居場所づくりができていたら願っています。それを目指す時が来たらまたお尋ねしてお話をお聞きしたいと思えます。

職員の皆様、メンバーの皆様お世話になりました。ありがとうございます。
日本社会事業大学
通信教育科 宇梶 孝

「体制整備事業」退院促進事業とは何が違うのだろう。初日からそんな好奇心を持って、私の実習は始まりました。

国分寺祭り・職員会議・LP会議・小金井病院のOT活動への参加・作業所・グループホーム・WRAPオリエンテーション・定期

相談：割愛しますが、今回実習で多くの新しい経験をする事ができました。同時に体制整備支援事業とは何かが少しわかった気がします。ただ退院を押し進めるのはいけません。退院していく地域に、その人のことを理解した支援体制が整っている必要がある。不

安があるのは当たり前だが、相談しに行ける場所があること、必要以上の孤独を感じないこと、そんな環境を作り上げていくことではないかと考えています。実習前にはきつと考えてもこの結論には至らなかったはずです。

私の実習は、すべてのスタッフさん、メンバーさん、共に学ばせていただいたお二人の実習生さんに助けられて終わることが出来ました。

ありがとうございました。

東京家政大学 佐々木 夏菜

私にとってははらかな家での実習は、悩みの連続であった。各施設の現場を見て、質問に答えていただくことすべてが、私にとって大変いい刺激となり勉強となった。しかし、それだけ日々得るものが多く、自分の中で整理することができず日々悩んだ。

実習も終わりに近づいた頃、やっと気付かされたことがある。それは、利用者様の主体性や自主性を尊重し、支援の中でそれらを反映させる姿勢が、どちらの施設にも共通してあるということだった。利用者様への管理や強制のもとで支援を行うことはたやすい、しかし決してそうはしない施設の持つ意識の高さ、実践の尊さにやっと考え及ぶことができた。

お忙しい中、私にこのように大変な貴重な「悩みの場」を与えてくださり、またその都度丁寧に答え続けてくださった職員の皆様、地域移行の現場を垣間見せてくださったLPの皆様、快く接してくださった利用者の皆様、本当に感謝しています。

皆様どうもありがとうございました。

日本福祉教育専門学校
高嶋 輝臣

フラッツ箱根一泊旅行

11月22、23日に第15回フラッツ旅行に行ってまいりました。1日目のお昼ごはんは、ほかほか釜飯定食でした。デザートは「金時力まんじゅう」という、中にお餅が入った揚げ饅頭でした。とてもおいしかったです。その後大涌谷では、7年延命するといふ黒たまごを食べ、箱根神社にも行きホテルに向かいました。ホテルでは見た目も華やかな料理にみなさんから「豪華！」や「たくさんあってもうお腹いっぱい！」など嬉しい言葉をたくさんいただきました。2次会ではカラオケとビンゴをする予定でしたが、カラオケが非常に盛り上がり、約2時間みんなで楽しく歌いました。



夕食、豪華でした。
みんな満足です！！

2日目は箱根彫刻の森美術館に行きました。敷地内に展示されている彫刻を眺めながら、紅葉がとてもきれいな敷地内を散歩することが出来ました。ピカソ展もやっていて、とても充実した内容でした。美術館内にはお土産や休憩スペースもあり、休みながら2手に分かれて行動しながら芸術に浸りました。
今回の旅行では2日間共、雲一つない快晴で、くっきりと富士山が見え、紅葉も赤く染まり非常にきれいで見ごろでした。
みなさんから「とても楽しかった！」という声をたくさんいただきました本当に良かったです。



富士山が綺麗でした。



カラオケルーム
美声がはらからまで届きそう



グループホーム合同行事・はとバス旅行

国会議事堂&東京スカイツリー



国会議事堂前で集合写真。とても良い笑顔

10月18日(金)に国会議事堂・東京スカイツリーに行ってきました。

国会議事堂では衆議院を見学。ガイドさんに詳しく案内していただき、勉強になりました。委員会室や国会中継などでお馴染みの本会議場を間近にし、とても貴重な体験となりました。最後は議事堂をバックに写真撮影。

次に昼食。赤坂にあるホテルでのバイキング形式でした。メニューも

豊富でカニやローストビーフに舌鼓を打ち皆さん大満足。

昼食後はお待ちかねの東京スカイツリーです。団体専用エレベーターを利用できたため待ち時間少なく、あつという間に天空の世界へいざなわれました。街がジオラマ模型のように見え圧巻な眺望でした。

天気にも恵まれ参加者一同(総勢21名内スタッフ5名)良い思い出になりました。



↑スカイツリー！
見上げて首疲れました。

はらからの家福社会賛助会コーナー

はらからの家福社会賛助会は、社会福祉法人はらからの家福社会の運営の維持・発展のために支援・協力することを目的として、主に財政的支援・協力の活動を行っています。

当会の趣旨にご賛同いただける方の入会をお待ちしております。会費は年間1口2千円からで何口でも可能です。会員の皆様には「われら同胞(本誌)」を送付しているほか、年に一度懇談会を開催し、会計報告・活動報告を行っております。皆様の会費は毎年取りまとめてはらからの家福社会に寄付させていただきます。

入会を希望される方は、下記口座に会費をお振込ください(同封の振込用紙も使えます。)

郵便振替口座番号

00180-8-130179

加入者名：はらからの家福社会賛助会

会費を納入いただいた方の名前を本誌に掲載させていただきます。

匿名希望の方はその旨通信欄にお書きください。

<平成25年度8月から10月の間に賛助会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

上賀 祥智 上柳 喜一 北村 道子 小林 和代 佐藤 久夫 須長 三郎 須長 靖夫 森田 忠男
山岸 琴美 坂田 晴弘 藤田 英親 片山 ヤエ 山田 正則 吉田 稔 福成 恵美子
にしの木クリニック 吉祥寺病院 田辺小夜子 小嶋勇次 野崎多美子 匿名3名

はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>



あけましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしく

お願い申し上げます。

われら同胞編集委員一同

【編集人】

社会福祉法人はらからの家福社会

〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

T E L 042-323-5637

F A X 042-328-3240

E-Mail harakara@jcom.home.ne.jp

【発行人】

障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073

東京都世田谷区砧 6-26-21

【定 価】 ¥120

